

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-222812

(43)公開日 平成5年(1993)8月31日

(51)Int.Cl.⁵
E 04 D 13/06

識別記号 庁内整理番号
106 S 7416-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全4頁)

(21)出願番号 特願平4-25164

(22)出願日 平成4年(1992)2月12日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 清水 重春

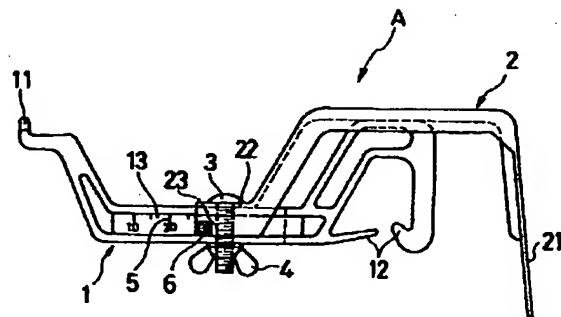
埼玉県上福岡市上福岡2-2-19

(54)【発明の名称】 軒樋支持具

(57)【要約】

【構成】 軒樋支持具Aは吊り具1と取付具2とからなる。吊り具1は耳保持部11、12とスライド部13とからなる。取付具2は取付部21と接続部22とからなる。そして、取付具2の丸孔23と吊り具1長孔14とに通されたボルトとナット4とで両者がスライドできるように取り付けられている。スライド部13に目盛り5が設けられている。

【効果】 スライド部13に目盛り5が設けられているから、地上で、この目盛り5を見ながら、吊り具1と取付具2とをスライドさせて、所定の位置に固定した後、この軒樋支持具Aを軒先に取り付けると、吊り具1が所定位置に簡単に取り付けることができる。従って、従来のように、軒先という高所で吊り具をスライドさせることなく、簡単に危険なく吊り具1を所定位置に取り付けることができる。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】軒樋を吊り下げる吊り具とこの吊り具を軒先に取り付ける取付具とからなる軒樋支持具であって、前記吊り具は両端に設けられた耳保持部とこの両方の耳保持部の間に設けられたスライド部とからなり、前記取付具は軒先に取り付けられる取付部と吊り具が取り付けられる接続部とからなり、吊り具のスライド部に長孔が設けられ、取付具の接続部に丸孔が設けられていて、吊り具の長孔と取付具の丸孔とに通されたボルトとナットとで吊り具が取付具にスライド自在に取り付けられている軒樋支持具において、吊り具のスライド部に目盛りが設けられていることを特徴とする軒樋支持具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は軒樋を吊り下げる吊り具とこの吊り具を軒先に取り付ける取付具とからなる軒樋支持具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、軒樋を軒先に取り付ける軒樋支持具としては種々あるが、この中の一種に実開昭57-199642号公報や実公平3-36653号公報に記載されている軒樋支持具がある。

【0003】この軒樋支持具は軒樋を吊り下げる吊り具とこの吊り具を軒先に取り付ける取付具とからなる。この吊り具は両端に設けられた耳保持部とこの両方の耳保持部の間に設けられたスライド部とからなり、取付具は軒先に取り付けられる取付部と吊り具が取り付けられる接続部とからなる。吊り具のスライド部に長孔を設け、取付具の接続部に丸孔を設けて、吊り具の長孔と取付具の丸孔とに通されたボルトとナットとで吊り具を取付具にスライド自在に取り付けたものである。

【0004】そして、この軒樋支持具の使用方法は、軒樋支持具の取付部を軒先に取り付け、吊り具のスライド部に設けられた長孔と取付具の丸孔とに通されたボルトを長孔内をスライドさせて、吊り具と軒先との距離を所定寸法にした後、ボルトとナットとで吊り具と取付具とを固定する。このようにして軒樋支持具を軒先に多数取り付け、この軒先に取り付けられた多数の軒樋支持具に軒樋を差し渡し、吊り具の両方の耳保持部に軒樋の両側の耳を係止させて、軒樋を吊り下げて、軒先に軒樋を取り付けていた。

【0005】吊り具のスライド部を取付具の接続部にスライドさせて取り付けるのは次の理由による。即ち、軒先と屋根の下端との距離は一定でなく、建物毎に異なるものである。従って、取付具と軒樋支持具との距離を一定の長さに固定していると、この軒樋吊り具に軒樋を取り付けたとき、雨水が落下する屋根下端の下方に軒樋が取り付けられないことがある。

【0006】従って、通常、軒樋支持具は、上記公報に記載あるように吊り具は取付具にスライドできるよう

10

20

30

40

50

構造になっている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかし、このように軒樋支持具を軒先に取り付けた後、樋吊り具と軒先との距離が一定になるように、スライドさせ、固定させるのであるが、この作業は軒先という高所での作業であるから、作業し難いと共に危険であった。

【0008】そこで、本発明の目的は吊り具と取付具とが所定位置に簡単に固定できる軒樋支持具を提供することである。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は上記問題を解決し、上記目的を達成するためになしたものであって、軒樋を吊り下げる吊り具とこの吊り具を軒先に取り付ける取付具とからなる軒樋支持具であって、前記吊り具は両端に設けられた耳保持部とこの両方の耳保持部の間に設けられたスライド部とからなり、前記取付具は軒先に取り付けられる取付部と吊り具が取り付けられる接続部とからなり、吊り具のスライド部に長孔が設けられ、取付具の接続部に丸孔が設けられていて、吊り具の長孔と取付具の丸孔とに通されたボルトとナットとで吊り具が取付具にスライド自在に取り付けられている軒樋支持具において、吊り具のスライド部に目盛りが設けられているものである。

【0010】本発明においてはスライド部に目盛りを設けるが、この目盛りを設ける位置はスライド部と接続部との相互位置が判るような位置であれば適宜でよい。例えば、スライド部に目盛りを設けていて、この目盛り上を接続部の先端が示す目盛りを読んでスライド部と接続部との位置が判るようにしてよい。又、接続部の中間部に窓を設け、この窓から目盛りを読むようにしてもよい。

【0011】

【作用】本発明軒樋支持具はスライド部に目盛りが設けられているから、予め、この目盛りを見ながら、スライド部と接続部とをスライドさせて、吊り具と取付具とを所定位置にし、ボルト・ナットで固定する。

【0012】このように予め吊り具と取付具とが所定位置に固定されていると、この軒樋支持具を軒先に取り付けるだけで、吊り具を所定位置に取り付けることができる。

【0013】

【実施例】次に、本発明の実施例を説明する。図1～3は本発明の一実施例を示すものであって、図1は軒樋支持具の側面図、図2は図1に示す軒樋支持具の上面図、図3は図1に示す軒樋支持具に軒樋を取り付けた状態を示す側面図である。

【0014】図1～3において、Aは軒樋支持具であり、この軒樋支持具Aは吊り具1と取付具2とからなる。吊り具1は両端部に耳保持部11、12が設けら

3

れ、この両方の耳保持部11、12の間にスライド部13が設けられている。又、このスライド部13には長手方向に長い長孔14が設けられている。

【0015】尚、11は屋外側の耳保持部であり、12は屋内側の耳保持部である。取付具2は一端部に取付部21が、又、他端部に接続部22が設けられている。取付部21には軒先に取り付けるためのビス孔25が設けられている。又、接続部22には丸孔23が設けられている。

【0016】3はボルトであり、4は蝶ナットである。このボルト3は吊り具1の長孔14と取付具2の丸孔23とに通され、蝶ナット4に螺入され、このボルト3と蝶ナット4とで吊り具1が取付具2にスライド自在に取り付けられる。

【0017】接続部22の両側縁は下方に下げられて係止片221、221が形成され、この両方の係止片221、221がスライド部13を両側から挟み、吊り具1が取付具2にスムーズにスライドできるようになっている。

【0018】5はスライド部13に設けられた目盛りである。6は接続部22の係止片221に設けられた窓であり、この窓6から目盛り5が見えるようになっている。

【0019】7は軒樋であり、この軒樋1の西側壁の上端部には耳部71、72が設けられていて、それぞれ吊り具1の耳保持部11、12に係止されるようになっている。

【0020】8は鼻隠し板からなる軒先である。次にこの軒樋支持具の使用方法および作用について説明する。先ず最初に軒先に梯子を掛け、この梯子を昇り、軒樋支持具Aを取り付ける。

【0021】この軒樋支持具Aの取り付け方法を説明すると、取付具2の取付部21を軒先8に当接し、ビス孔25から軒先8にビスを螺入して取付具2を軒先8に取り付ける。

【0022】次に、取付具2の接続部22を吊り具1のスライド部13上をスライドして、吊り具1を所定位置に移動させ、ボルト3に蝶ナット4を螺入して取付具2に吊り具1を固定する。

【0023】接続部22に設けられた窓6から目盛り5を読む。梯子から下りて、地上で他の軒樋支持具Aの取付具2と吊り具1とをスライドさせて、所定位置に固定する。

【0024】この固定方法を説明すると、取付具2の接

4

続部22と吊り具1のスライド部13とを、目盛り5を見ながら、スライドさせて、スライド部に設けられた目盛り5が軒先に取り付けた軒樋支持具Aの目盛り5と同じ目盛り5になるようにした後、ボルト3に蝶ナット4を螺入して取付具2に吊り具1を固定する。

【0025】このように地上で取付具2に吊り具1を固定した軒樋支持具Aを梯子を昇り、次々と軒先8に取り付ける。このように、予め、地上で取付具に吊り具1を固定した軒樋支持具Aを取り付けられるから、この軒樋支持具Aの取り付けは極めて速く簡単に取り付けられ、危険でもなかった。

【0026】

【発明の効果】本発明軒樋支持具では吊り具のスライド部に目盛りが設けられているから、取付具と吊り具との相対的な位置がこの目盛りを見ることにより判る。

【0027】従って、予め、地上で吊り具と取付具とをスライドさせて、所定位置に固定させることができる。従って、この所定位置に固定した軒樋支持具を軒先に固定するだけで、軒先に軒樋支持具が取り付けられる。

【0028】このように、軒先という高所での危険な作業が少なくなるから、速く簡単に軒樋支持具が軒先に取り付けることができるので、本発明は価値がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は本発明の一実施例を示すものであって、軒樋支持具の側面図である。

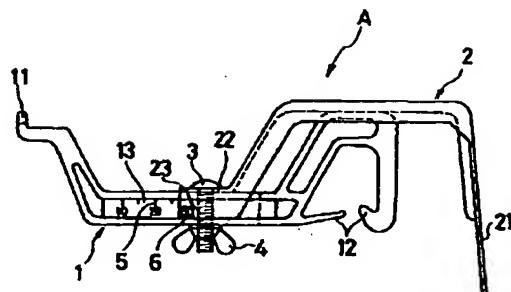
【図2】図2は図1に示す軒樋支持具の上面図である。

【図3】図3は図1に示す軒樋支持具に軒樋を取り付けた状態を示す側面図である。

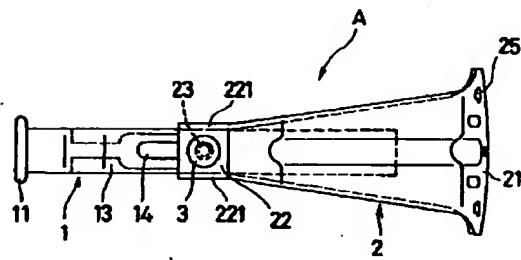
【符号の説明】

30	A	軒樋支持具
	1	吊り具
	11、12	耳保持部
	13	スライド部
	14	長孔
	2	取付具
	21	取付部
	22	接続部
	23	丸孔
	3	ボルト
40	4	ナット(蝶ナット)
	5	目盛り
	6	窓
	7	軒樋
	8	軒先

【図1】



【図2】



【図3】

